

第1学年「いきものとなかよし」・第2学年「生きもの なかよし 大作せん」 ～ 生きものなかよしランドをつくろう ～

本校で育成を目指す資質・能力

◎表現力

○主体性・自信・協働性

1 学 年 第1学年 3名 第2学年 4名 計7名

2 単元のデザイン

(1) 単元について	(2) 児童について
本単元は、小学校学習指導要領解説生活編の内容(7)「動物を飼ったり植物を育てたりする活動を通して、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもって働きかけることができ、それらは生命をもっていることや成長していることに気付くとともに、生き物への親しみをもち、大切にしようとする。」を受けて設定したものである。身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物に親しみをもち、小さな生き物にも命があることに気付くことで、生き物が生きている自然と人間との関わり方について意識を高めることができる。 また、たくさんの生き物と出会い、生き物の生態の多様さやおもしろさに触れることで自然の豊かさや大切さに気付くことができる。そして、生き物がたくさんいる豊かな自然は、人間にとっても生きていくためにかけがえのないものであるという意識を育てることができる。 本単元の学習は、第1学年は、国語科「みんなにはなそう」や説明的な文章「さとうとしお」「どうやってみをまもるのかな」の学習と関連させていくことができる。第2学年は、国語科「かんさつしたことを書こう」や説明的な文章「たんぽぽ」「サツマイモのそだて方」の学習と関連させていくことができる。	本学級の第1学年の児童は、3名のうち2名が同じ幼稚園から入学してきており、幼稚園でカタツムリを見つけて絵を描いた経験はあるが、生き物を飼育した経験はない。また、2名とも家庭で生き物を飼った経験が全くなく、その内の1名については昆虫がとても苦手である。保育所から入学した1名については、カナブンやテントウムシを保育所で捕まえたり、家庭でカブトムシを成虫になるまで育てたりした経験があり、意欲的に生き物を捕まえたり触ったりすることもできる。昆虫が苦手な1名の児童は、2年生の話を聞く中で、「育てたら虫が好きになるかもしれない」という期待感を抱いている。 本学級の第2学年の児童は、昨年の生活科の授業で、それぞれがモンシロチョウ、ヤゴ、アゲハチョウ、ダンゴムシを飼った経験があり、自分が調べた生き物に対しての知識がある。そのため、昨年の経験をもとに1年生にアドバイスをする姿も期待できる。また、全員がもともと生き物好きであったが、昨年生き物を飼ったことで、さらに生き物が好きになり、「虫たちを守りたい。」「もっと生き物がすみやすい世界にしたい。」という思いを抱いている。 児童アンケートを実施(令和5年4月)したところ、「みんなの前で自信をもって話したり説明したりしています。」という項目では、全員が肯定的回答をしている。しかし、「相手に伝わるように工夫して話しています。」という項目では、7名のうち4名が否定的回答をしている。これらのことから、活動や体験したことを振り返ったりそこでの気づきを伝えたりすることへの苦手意識はないが、自分なりに整理をして話したり、伝えたいこと明確にして伝えたりすることに課題が見られる。
(3) 単元で追究する問い	
①本質的な問い〈何度も問い直され答えが更新され続ける「問い」〉 ・生き物がくらしやすい自然を守るために、私たちにできることは何だろう？ ②単元を貫く問い〈単元を通して考え深めていく「問い」〉 ・生き物がくらしやすい自然は、どんなところだろう？ ③個別の問い〈単元を構成する授業内で身に付ける知識・技能等〉 ・生き物は、どんなところがすきなのかな？ ・どうして〇〇は、こんなところにいるのかな？ ・生き物は、どのように大きくなっていくのかな？ ・もし〇〇だったら、どうして欲しいかな？	
(4) 指導の手立て	
本単元の指導に当たっては、次の3点の工夫を行う。 ① 生き物と関わる時間を多く設ける。 児童が活動に熱中し没頭することができるように、安全に活動できる場の設定に配慮しながら飼育環境を整えていく。また、生き物の観察や世話など日常的な関わりを繰り返しもたせることで、生き物への興味・関心を高めるとともに、活動したことを伝えたいという思いや願いが高まるように、意図的・計画的に学習活	

動を展開する。 ② 感じたことや気付いたことを表現する機会を意図的に設ける。 児童が生き物に心を寄せ、「伝えたい」という思いをもつことができるように、学習過程の様々な場面で伝え合いの場を設定し、「見付ける」「比べる」「たとえる」などの活動を促すために、声かけを行っていくようにする。また、常時活動で試したことや困っていることなど思いや気付きを伝え合う時間を設定し、自分の思いや気付きを自覚させたり、一人一人の気付きや思いを全体で共有したりするとともに、次に自分がしたいことを考えさせ、意欲的に活動できるようにする。 ③ 虫が得意な児童、苦手な児童が互いに関わり合う活動を設ける。 虫が得意な児童と苦手な児童が協力しながら無理なく学習に取り組めるように、クラス全体で自分や友達の生き物の世話や観察を行うようにする。互いの関わりの中で、生き物の特徴や触れ合い方の工夫といった新たに発見したことを、自分の世話に生かすことができるようにする。 本校で育成を目指す資質・能力を育成するために、次の指導の手立てを行う。 ・話し合いの場において、話し合いの進め方を示した「学びのステップ」表を活用しながらリーダーを中心に進めていく。 ・日頃から、自分の考えを話す際には、声の大きさに気を付けること、相手の方を見て話すこと、結論先行で話すこと、理由を付け加えることなどを指導する。	
(5) ファシリテーターの視点	
I 場のデザイン ～場をつくり、つなげる～ 共有	①目的や目標を理解させる ②話しやすい雰囲気をつくる ③話し合いの進め方を設定する
II 対人関係 ～受け止め、引き出す～ 発散	④発言を受け止める ⑤意見を引き出す ⑥話し合いを方向付ける
III 構造化 ～かみ合わせて、整理する～ 収束	⑦あいまいな意見を明確にする ⑧多様な視点から話し合わせる ⑨議論を可視化する
IV 合意形成 ～まとめて、分かち合う～ 決定	⑩対立により話し合いを活発化させる ⑪対立を解消する ⑫意見の一致を図る

3 単元目標

- 身近な生き物を探したり飼ったりする活動（第1学年）、継続的に生き物を飼育する活動（第2学年）を通して、
- それらは生命をもっていることや成長していることに気付くことができる。【知識及び技能の基礎】
 - ◎それらの育つ場所や、変化の様子に関心をもって働きかけることができる。【思考力、判断力、表現力等の基礎】
 - 生き物への親しみをもち、適切な世話をし、大切にしようとするすることができる。【学びに向かう力、人間性等】

4 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
第1学年	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、それらは生命をもっていることに気付いている。	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、それらの育つ場所、動きや変化の様子に関心をもって働きかけている。	身近な生き物を探したり飼ったりする活動を通して、生き物への親しみをもち、大切にしようとしている。
第2学年	継続的に生き物を飼育する活動を通して、それらが生命をもっていることや成長していることに気付いている。	継続的に生き物を飼育する活動を通して、それらの生態や変化、成長の様子に関心をもって働きかけている。	継続的に生き物を飼育する活動を通して、生き物への親しみをもって、生き物を大切にしようとしている。

5 小单元における評価規準

	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度	
	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年	第1学年	第2学年
第1次				①これまでの経験を想起しながら、身近な生き物について友達と話している。		
第2次	①校庭の生き物の特徴や育つ場所に気付いている。	①生き物の育つ場所の特徴に気付いている。	①生き物を観察することについて、色や形、音、動き方などを意識しながら、生き物の特徴を捉えている。	②これまでの経験や聞いたこと、調べたりしたこと、基に、いる場所を予想しながら生き物を探している。	①身近な生き物について、進んで関心をもち、積極的に関わろうとしている。	
第3次	②生き物が変化していることや、生命をもっていることに気付いている。	②生き物も自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、生き物に合った世話の仕方があることに気付いている。 ③適切な方法で、生き物の世話を継続的にしている。	②餌やりや掃除などをしながら生き物の様子を観察したり、本などで調べたことを試したり、取り入れたりしながら世話をしている。	③生き物の立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。 ④これまでの様子と比べたり、形や動き、色などを知っているものにたとえたりしながら、生き物の変化や成長の様子を捉えている。	②生き物の様子に応じて世話の仕方を変えることの大切さを実感している。	②生き物の特徴、育つ場所、変化や成長の様子に応じて、世話をしようとしている。
第4次			③生き物の様子について、実際に触れてみて気付いたことや思ったことを表現している。	⑤生き物の成長の様子について、資料やカードなどの記録を使って比べたり、自分たちのお世話の仕方と関連付けたりしながら、様子や変化が伝わるように工夫して表現している。	③世話をしてきた生き物に親しみをもち、これからも生き物を大切にしようとしている。	
第5次		④生き物の様子に合わせて世話をすることができるようになった自分の成長に気付いている。		⑥生き物との関わりを振り返りながら、世話をして気付いたことや生き物への思い、自分自身の成長を表現している。	④生き物との関わりが増したことに自信をもち、これからも生き物を大切に、関わり続けようとしている。	

6 指導と評価の計画（全 15 時間 本時 11/15）

探究の過程 (時間)	小単元名・学習活動・予想される児童の発言	【学年】 評価規準	評価方法
第1次 課題の発見 (1時間)	生きものはなしをしよう！ ○ふだんの生活の中で見つけた生き物について話し合う。 ○本単元のねらいと活動計画について知る。 生きものなかよしランドをつくろう！ ○どこにどんな生き物がいるか、採集に行く計画を立てる。  生き物は、どんなところがすきなのかな。	【2年】 思①	行動観察 発言分析
第2次 体験 (2時間) 表現 (2時間)	生きものをさがそう！ ○校庭や学校園、プールに行って、生き物を探す。 ○採集した生き物を観察する。 紙とデジタルの選択 紙:絵を描いて記録する。デ:クロムブックで写真や動画を撮る。  この生き物のことをどうやって調べようかな。 ○気に入った生き物について、特徴（体の形・色・足の数・動き方・えさ・すみか・成長の仕方など）を調べる。 紙とデジタルの選択 紙:図書の本で調べる。デ:クロムブックで調べる。 ○気付きや調べてわかったことなどをカードに書く。  この生き物を飼うには、どんなすみかをつくらなければならないのかな。	【1年】 知① 思① 態① 【2年】 知① 思② 態①	行動観察 発言分析 観察カードの分析
第3次 体験・表現 (4時間)	生きものをそだてよう！ ○自分が選んだ生き物にとって、どんなすみかがいいのかを調べる。 紙とデジタルの選択 紙:図書の本で調べる。デ:クロムブックで調べる。 ○飼育ケースにすみかを作り、生き物を飼う約束（世話の仕方）を決める。 ○継続的に飼育を行い、観察し続ける。  毎日世話を続けたから、生き物のひみつ（変化・成長）がたくさん分かったよ。自分が調べた生き物のことをみんなに伝えたいな。	【1年】 知② 思② 態② 【2年】 知②③ 思③④ 態②	行動観察 発言分析 観察カードの分析 写真や動画の分析

第4次 表現 (5時間)	生きもののことをつたえ合おう！ ○誰に、どんなことを、どんな方法で伝えたいか計画を立てる。 ○ダンゴムシについての新聞の内容を考え、交流する。 (本時2／5)  どの写真を使って、伝えたらいいかな？ ○自分が担当した生き物について、伝えたいことを考える。 ○発表の仕方を教え合い、工夫して、準備や練習をする。 ○発表会を行い生き物のことを伝え合う。	【1年】 思③ 態③ 【2年】 思⑤ 態③	行動観察 発言分析 写真や動画の分析 「おしえたいなカード」の分析 表現物の分析
第5次 表現 (1時間)	生きもののことをふりかえろう！ ○飼育活動を振り返る。 ○生き物を今後どうするのか、みんなで話し合う。  よく観察したから、広い自然に帰してあげよう。 ○生き物が生き生きと暮らせる環境は、人間にとっても暮らしやすい環境であることを絵本の読み語りを通して伝える。 生き物がたくさんいる自然っていいな。 	【1年】 態④ 【2年】 知④ 思⑥ 態④	行動観察 発言分析 振り返りカードの分析

新しい課題の設定

今度は、海の生き物について調べたい。

7 本時の学習 【11／15】

(1) 本時の目標

これまで自分が調べたことや、飼育する中で変化・成長してきたダンゴムシの様子について、自分が伝えたいことを選び、文章で表現することができる。

(2) 本時で育てたい資質・能力

相手意識、目的意識を明確にし、伝えたいことを表現する。(表現力)

(3) 準備物

これまでの記録カード、写真、クロムブック、飼育ケース、図鑑

(4) 他教科等との関連

・第1学年国語科

「どうやってみをまもるのかな」と関連させて、事柄の順序を考えながら伝えたいことを文章で表す。

・第2学年国語科

「サツマイモのそだて方」と関連させて、説明の仕方で身に付けた「言葉の力」を活用して、伝えたいことを文章で表す。

(5) 学習計画

学習活動 ※児童から引き出したい言葉	指導上の留意事項（・） 支援を必要とする児童への支援の手立て（◆） ファシリテーターの視点（【○】）	○評価規準 ・評価方法
1 前時までの学習を振り返る。 2 本時の学習課題と目指す姿を確認する。	・本時の流れを掲示しておき、前時に確認した生き物の特徴や成長の変化について振り返る。 ・クロムブック、写真、自分の記録カードなどを準備して、視覚的に確認することができるようにする。 ・事前に記録カードの中のよい気付きに対して、赤ペンで肯定的評価を入れ、自信がもてるようにしておく。 【①目的や目標を理解させる】	
だんご虫のとくちょうや せいちょうのようすをもとに、 「おしえたいなカード」をつくろう！		
3 クロムブックにあるダンゴムシの写真の中から、自分が使いたい写真を選び、選んだ理由を考える。 4 みんなで話し合っ、おしえたいなカードにどの写真を使うのかを決める。 ※ぼくは、○番の写真を選びました。どうしてかという、ダンゴムシの赤ちゃんが生まれるところを初めて見て、すごいと思ったからです。 ※ぼくは、○番の写真を使いたいです。わけは、ダンゴムシの脱皮の様子が分かるからです。 5 自分が伝えたいダンゴムシのことについて文章に表す。 6 グループに分かれて、作成した文章についてアドバイスをし合う。 7 一人ひとりのカードを1枚の模造紙にまとめ、ダンゴムシ新聞を完成させる。 8 本時の学習の「目指す姿」について自己評価し、次時の確認をする。	・ダンゴムシのどんなところを伝えたいのか記録カードをもとに考えさせる。 ◆写真を選んだ児童には、どうしてその写真にしたのか理由が言えるように声掛けを行う。 【④発言を受け止める】 ・日頃から、「話合いの学びのステップ」表を活用し、話合いの進め方に慣れさせておく。 【③話合いの進め方を設定する】 ・どうしてその写真を選んだのか理由を付けて発表できている児童を肯定的評価する。 【④発言を受け止める】 【②話しやすい雰囲気をつくる】 ・学年毎にシートを用意する。 ◆文章を考えられない児童には、記録カードの中のよい気付きに目を向けられるよう声掛けをしたり、生き物を見ながらしたことを聞き、伝えたいことを教師と一緒に選んだりする。 【⑤意見を引き出す】 ・お互いに知っていることや付け加えたいいいことをアドバイスさせる。 ◆アドバイスができない児童には、友達の文章のよいところを伝えるよう声掛けを行う。 ・全員分のカードが貼り付けられる大きさの模造紙を準備しておく。 ・児童の発言を基に、教師がグループピングしながらレイアウトしたり、タイトルや小見出しを付け足したりしていく。	○【1年】思③ ○【2年】思⑤ ・行動観察 ・発言分析 ・「おしえたいなカード」の分析

